



12月号 令和元年11月29日発行

# 菫田小だより

横浜市都筑区菫田南町694番地 [Tel 911-0149]

アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



『心』をみがく機会を大切にしていきたい  
～いたわり・他人の痛みを感じること・やさしさ～

校長 伊藤 智樹

12月10日は『人権デー』です。第二次大戦後の1948年（昭和23年）12月10日の第3回国連総会において、世界人権宣言が採択されました。1950年（昭和25年）12月4日の第5回国連総会においては、世界人権宣言が採択された日である12月10日を『人権デー』と定め、人権活動を推進するための諸行事を行うよう、要請する決議を採択しました。日本では、法務省と全国人権擁護委員連合会が、同宣言が採択されたことを記念して、1949年（昭和24年）から、毎年、人権週間を定めています。今年は71回目をかぞえ、12月4日～10日が人権週間です。

人権とは少し難しい言葉ですが、『すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利』あるいは『人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利』です。人権は誰にとっても大切なものであり、日常の思いやりの心によって守られなければならないものです。



タイトルに『心をみがく機会を大切にしていきたい』という文言を書かせていただきました。それは、心の中にある“いたわり”や“やさしさ”といった『心』は、本能ではなく、日々の心の訓練や体験により身に付けていくものだと考えるからです。

司馬遼太郎氏が、『21世紀を生きる君たちへ』という子どもたちのために唯一書き下ろしたエッセイ（平成元年小学6年国語教科書に掲載）の中で、いつの時代になっても、人間が生きていく上で欠かすことができない心がまえを、次のように述べています。（一部抜粋）

自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。

助け合うという気持ちや行動のもとのもと、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることを言ってもいい。やさしさと言いかえてもいい。

「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」みな似たような言葉である。

この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのである。その訓練とは、簡単なことである。

例えば、友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。～途中略～ 君たちさえ、そういう自己をつくっていけば、21世紀は人類が仲よしで暮らせる時代になるにちがいない。

執筆されてから30年以上経過していますが、今あらためて読むと私たち教師が学校教育で大切にしなければならない根幹が書かれていると思います。21世紀を生きる小学生に向けたメッセージであると同時に私たち教師へのメッセージであると感じました。

学校教育は、教師と子どもたち同士の関わりの中で営まれる活動です。私たち教師は、ただ教科書の内容を教えるだけでよいわけではありません。上記の内容を常に念頭に置き教育活動を進めていくことの大切さを実感しました。